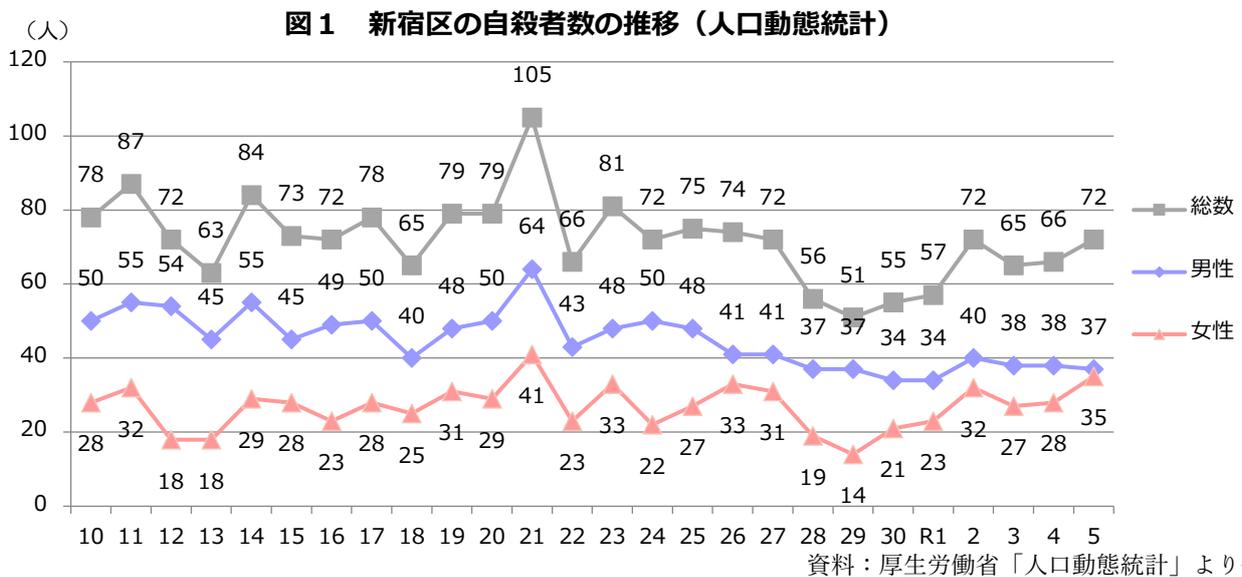


新宿区における自殺の現状 令和6（2024）年版

(1) 厚生労働省の人口動態統計に基づく自殺者数の推移

厚生労働省の人口動態統計に基づく自殺者数は、令和4（2022）年は66人、令和5（2023）年は72人と増加しています。

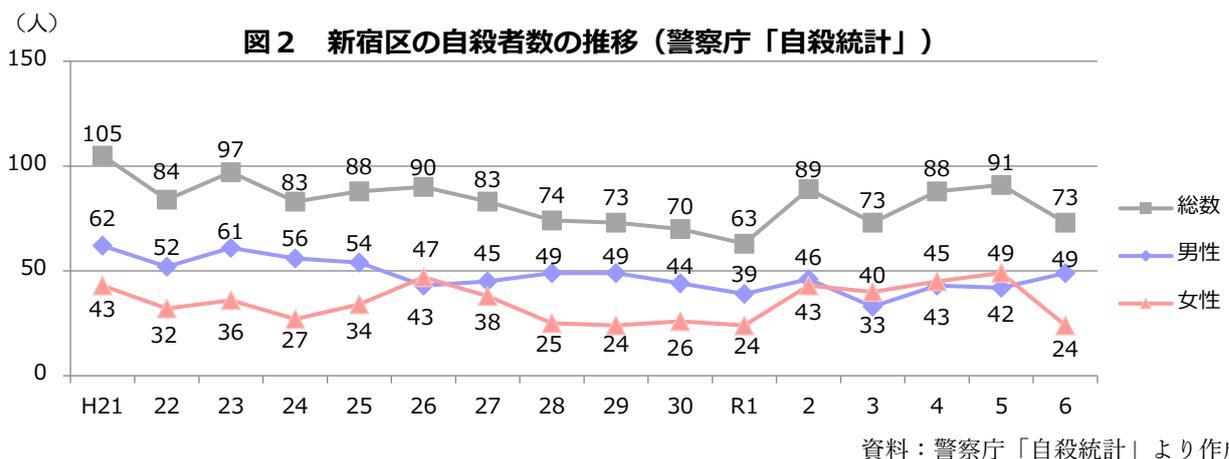
自殺者数の推移をみると、平成28（2016）年からは50人台と減少していましたが、令和2（2020）年は72人に増加しました。令和5年も依然として高い水準となっています。（図1）＊外国人含まず



(2) 警察庁の自殺統計に基づく自殺者数の推移

警察庁の自殺統計に基づく自殺者数は、令和5（2023）年は91人、令和6（2024）年は73人と減少しています。

自殺者数は、平成21（2009）年以降は減少傾向であり、令和元（2019）年には63人まで減少しました。令和2（2020）年は89人で、平成26（2014）年以来6年ぶりに増加に転じました。新型コロナウイルス感染症の影響で高止まりの傾向が続いていましたが、令和6年はコロナ禍以前の水準に戻ってきています。（図2）



(3) 警察庁の自殺統計に基づく自殺死亡率（人口 10 万対）の推移

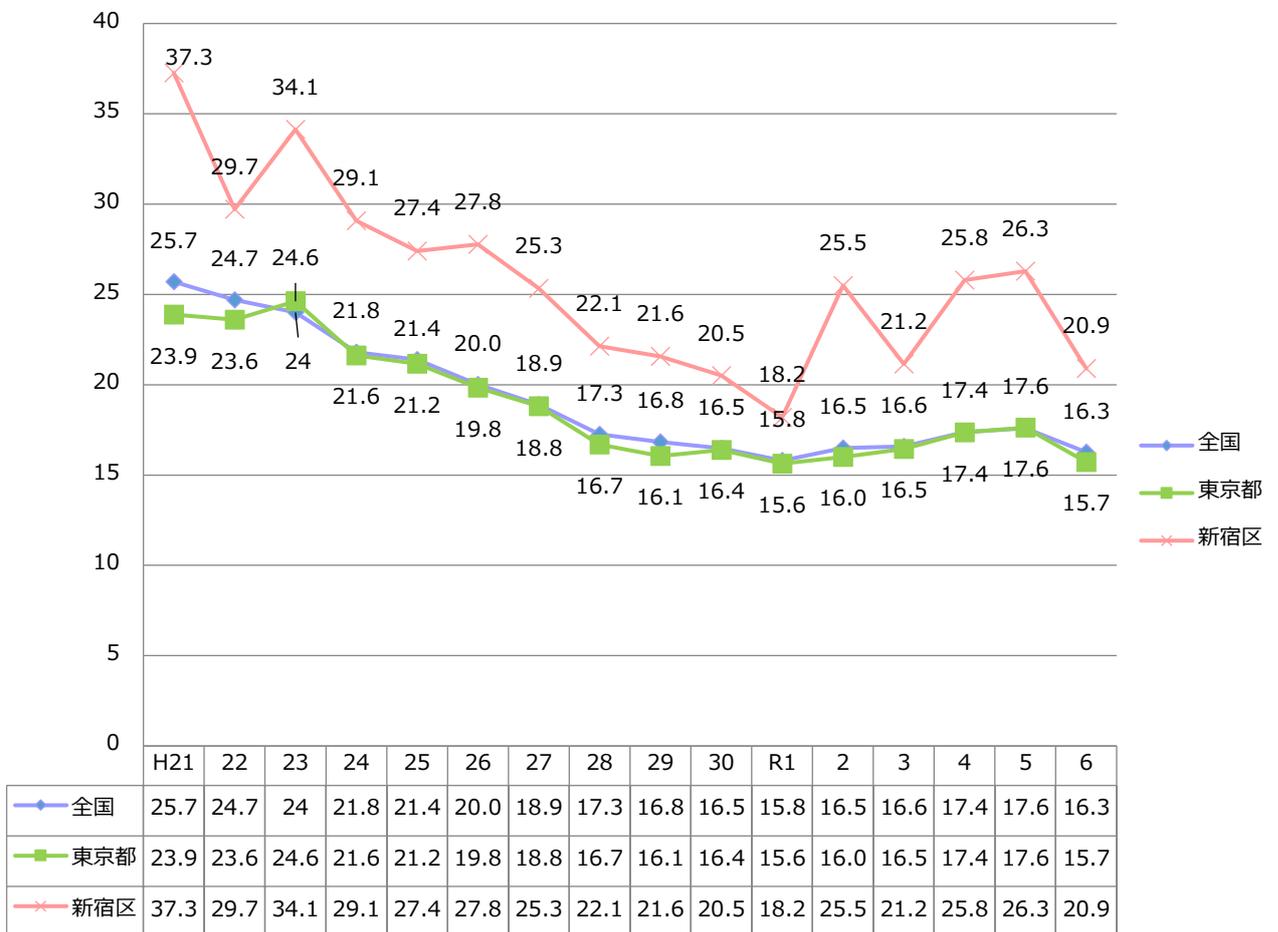
自殺死亡率は、全国や東京都と比べて高い水準が続いています。

全国の自殺死亡率は、平成 21(2009)年の 25.7 以降減少傾向にあり、令和元(2019)年には 15.8 まで減少しました。令和 2(2020) 年以降は増加傾向にありましたが、令和 6(2024) 年は減少に転じています。東京都も全国に近い値で推移しています。

新宿区の自殺死亡率は、平成 21(2009)年の 37.3 に対し、令和元(2019)年は 18.2 と減少傾向にありましたが、令和 2(2020) 年に 25.5 と急激に上昇しました。令和 6(2024) 年は 20.9 に減少しましたが、全国や東京都と比べて依然高い水準となっています。(図 3)

(人口 10 万対)

図3 自殺死亡率の推移 総数

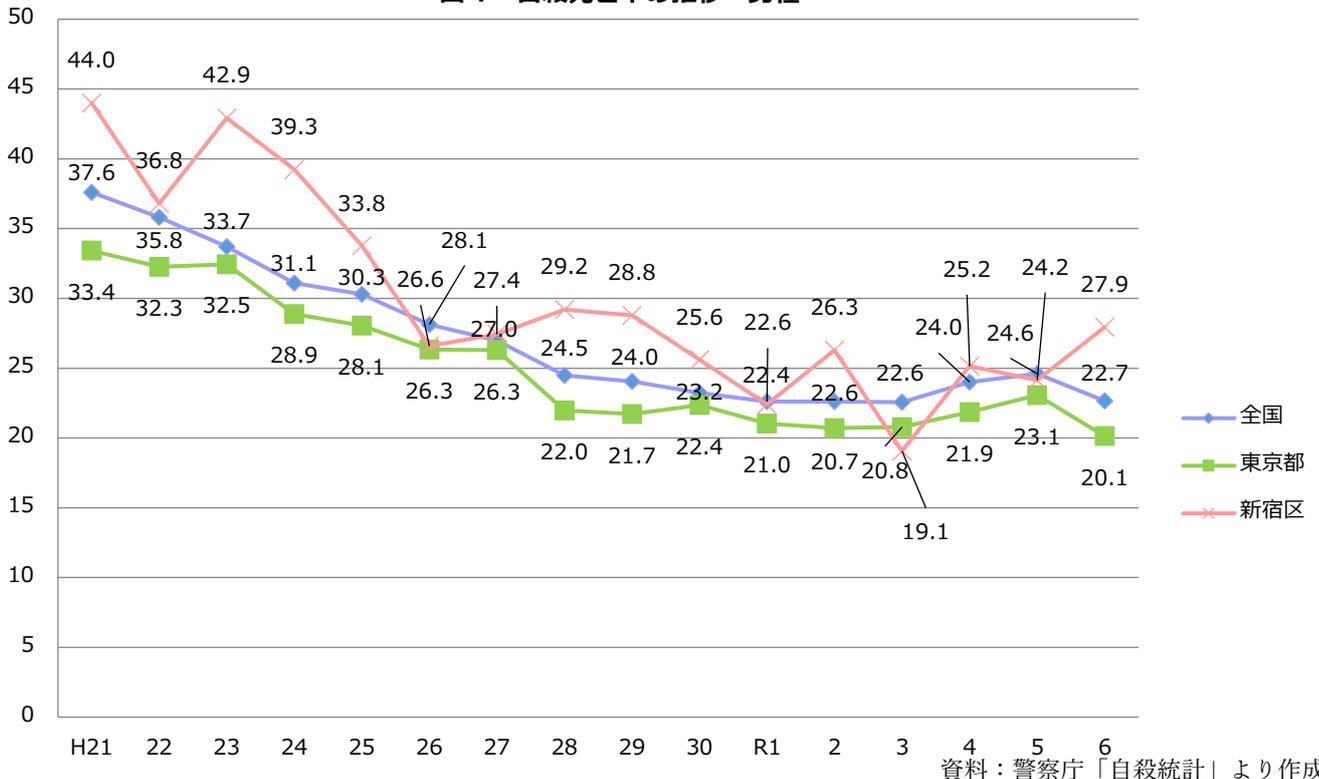


資料：警察庁「自殺統計」より作成

自殺死亡率を男女別にみると、男性は平成 21（2009）年の 44.0 と比べ、令和 3（2021）年は 19.1 まで減少し、全国、東京都と比べて低い水準となりましたが、令和 6（2024）年は 27.9 と上昇しています。女性はコロナ禍以降も、全国、東京都と比べて高い数値となっていました。令和 6（2024）年は 13.8 となり平成 21（2009）年以降最も低くなりました。（図 4、図 5）

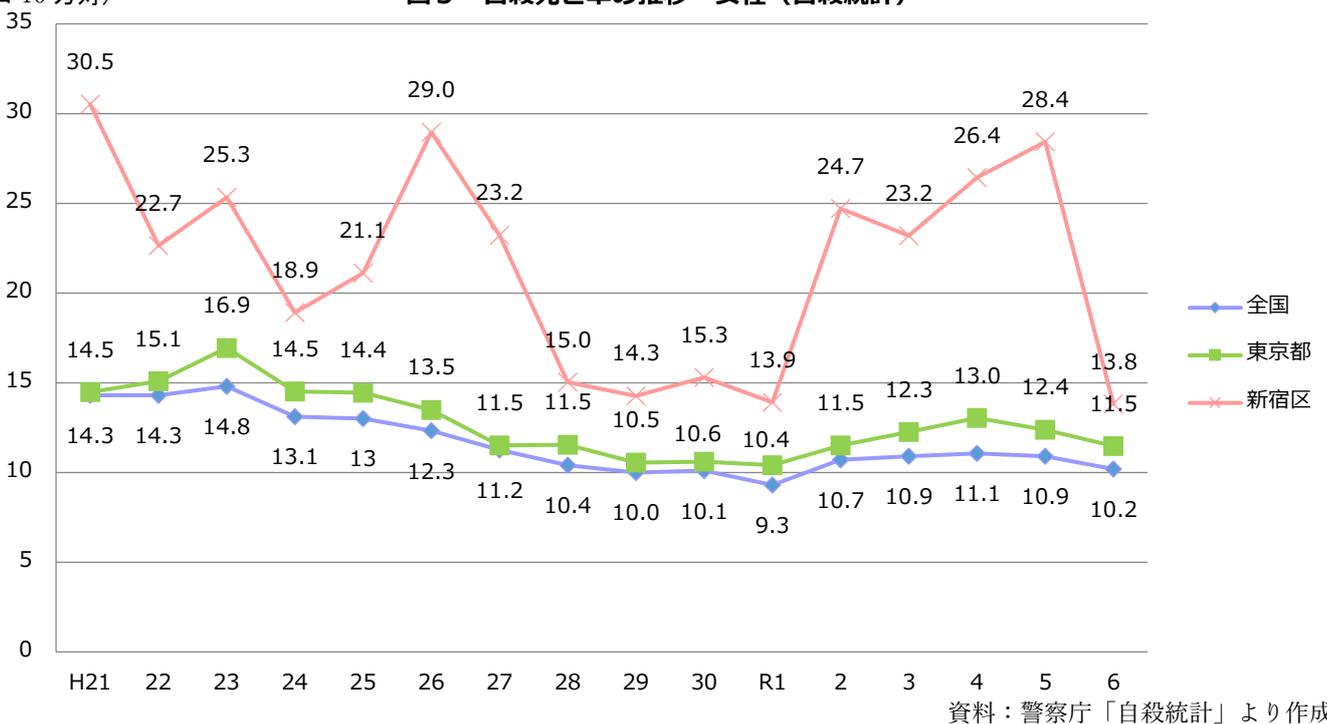
（人口 10 万対）

図 4 自殺死亡率の推移 男性



（人口 10 万対）

図 5 自殺死亡率の推移 女性（自殺統計）



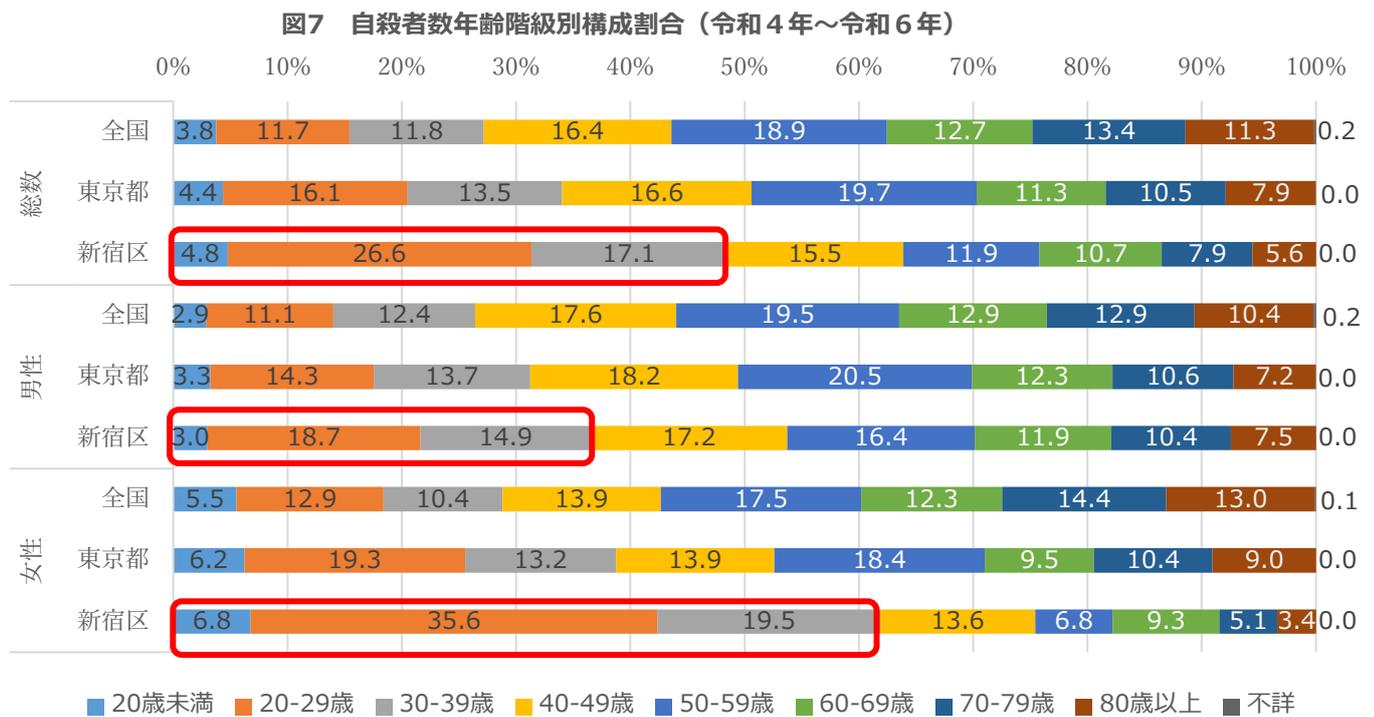
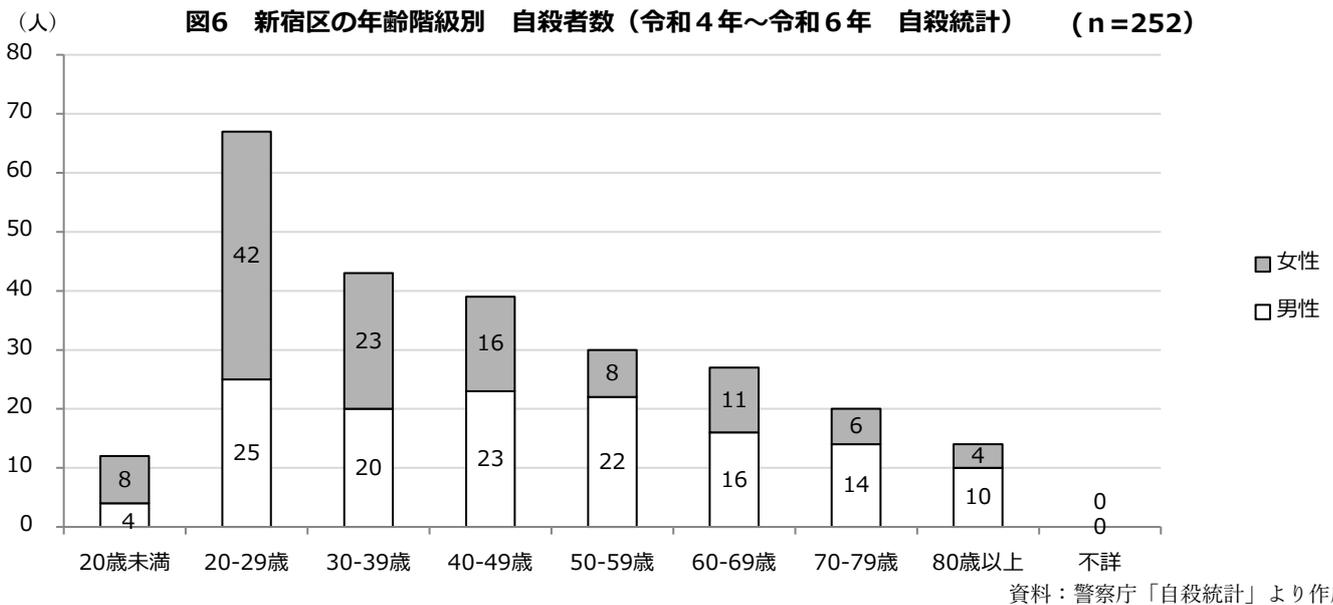
(4) 警察庁の自殺統計に基づく自殺の状況（性別・年齢階級別等）

① 令和4（2022）年～令和6（2024）年の年齢階級別自殺者数

自殺者数は、20歳代が一番多く、39歳以下が全体の約5割を占めます。

令和4（2022）年～令和6（2024）年の新宿区における自殺者数を年齢階級別にみると、20歳代が一番多く、次いで30歳代、40歳代と続いています。（図6）

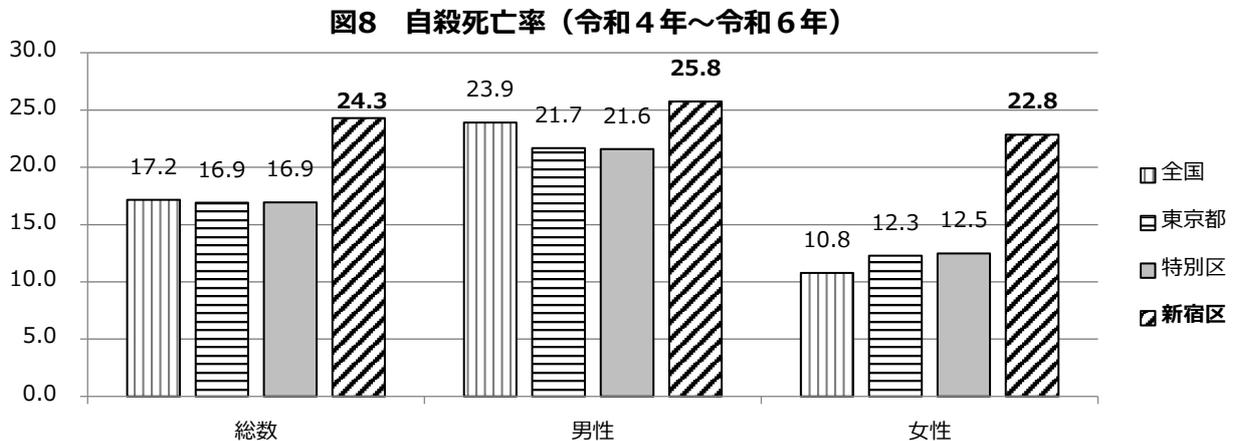
また、年齢階級別構成割合をみると、39歳以下の割合が総数・男性・女性ともに全国、東京都と比べて高くなっています。（図7）



② 令和 4（2022）年～令和 6（2024）年の性別自殺死亡率

自殺死亡率は、全国や東京都に比べて、女性が特に高い傾向にあります。

新宿区における令和 4（2022）年～令和 6（2024）年の自殺死亡率は、総数 24.3、男性 25.8、女性 22.8 と、全国、東京都、特別区と比べて自殺死亡率が高くなっています。（図 8）

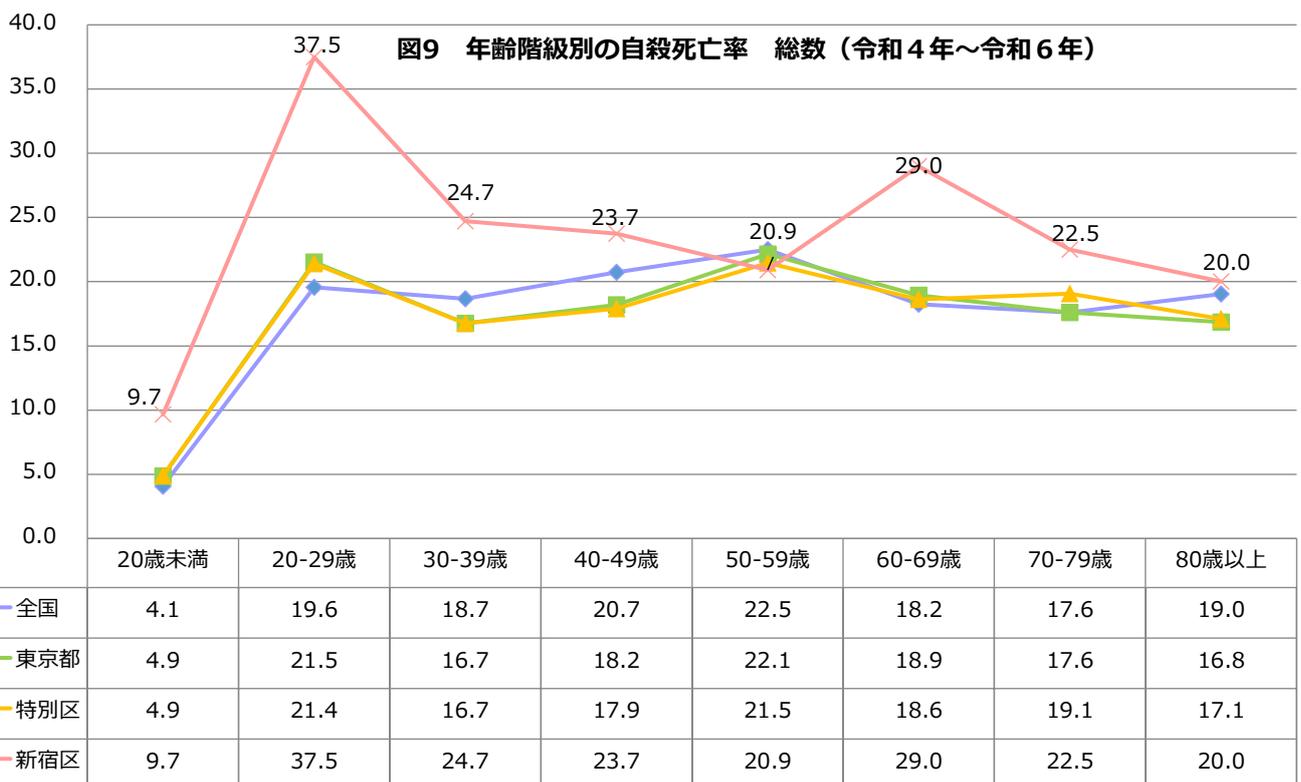


資料：警察庁「自殺統計」、総務省「人口推計」、東京都「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」より作成

③ 令和 4（2022）年～令和 6（2024）年の年齢階級別自殺死亡率（男女計）

自殺死亡率は 20 歳代、60 歳代の順に高く、20 歳代は全国の約 1.9 倍です。

新宿区における令和 4（2022）年～令和 6（2024）年の自殺死亡率を年齢階級別にみると、20 歳代が 37.5 と一番高く、次いで 60 歳代と続いています。（図 9）



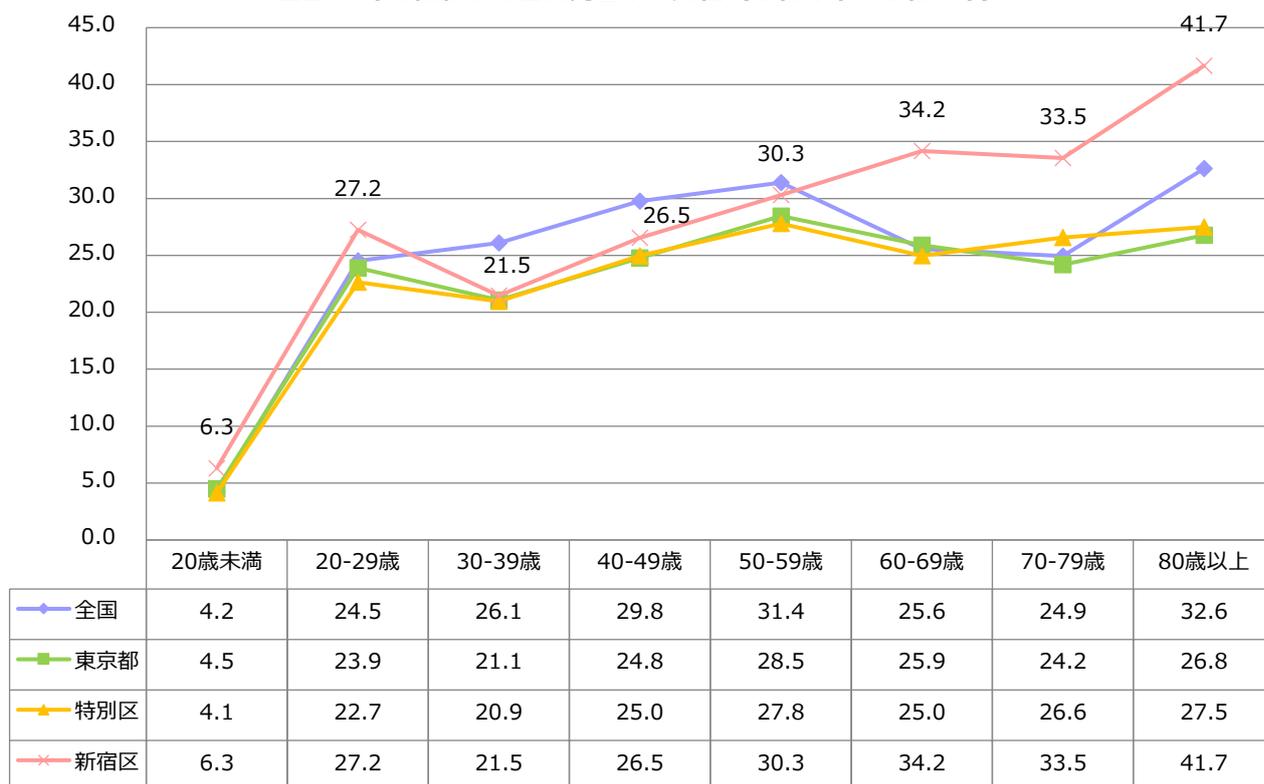
資料：警察庁「自殺統計」、総務省「人口推計」、東京都「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」より作成

④ 令和4（2022）年～令和6（2024）年の年齢階級別自殺死亡率（男性）

男性の自殺死亡率は、80歳以上、60歳代の順に高く、50歳代までは全国、東京都、特別区とおおむね同程度の水準です。

新宿区における令和4（2022）年～令和6（2024）年の男性の自殺死亡率を年齢階級別にみると、80歳以上が41.7と一番高く、60歳代が34.2、70歳代が33.5と続いています。（図10）

図10 年齢階級別の自殺死亡率 男性（令和4年～令和6年）



資料：警察庁「自殺統計」、総務省「人口推計」、東京都「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」より作成

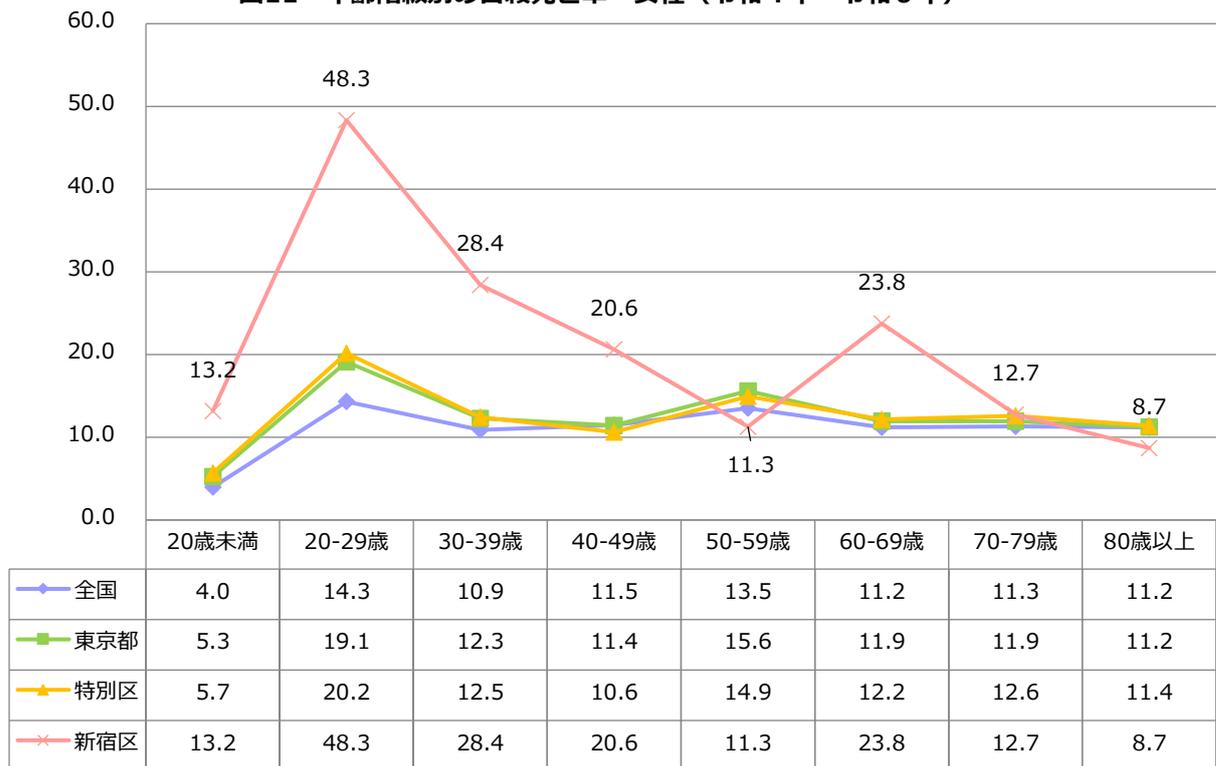
⑤ 令和4（2022）年～令和6（2024）年の年齢階級別自殺死亡率（女性）

女性の自殺死亡率は、20歳代、30歳代の順に高く、20歳代は全国の約3.4倍です。

新宿区における令和4（2022）年～令和6（2024）年の女性の自殺死亡率を年齢階級別にみると、20歳代が48.3と一番高く、30歳代が28.4と続いています。

（図11）

図11 年齢階級別の自殺死亡率 女性（令和4年～令和6年）



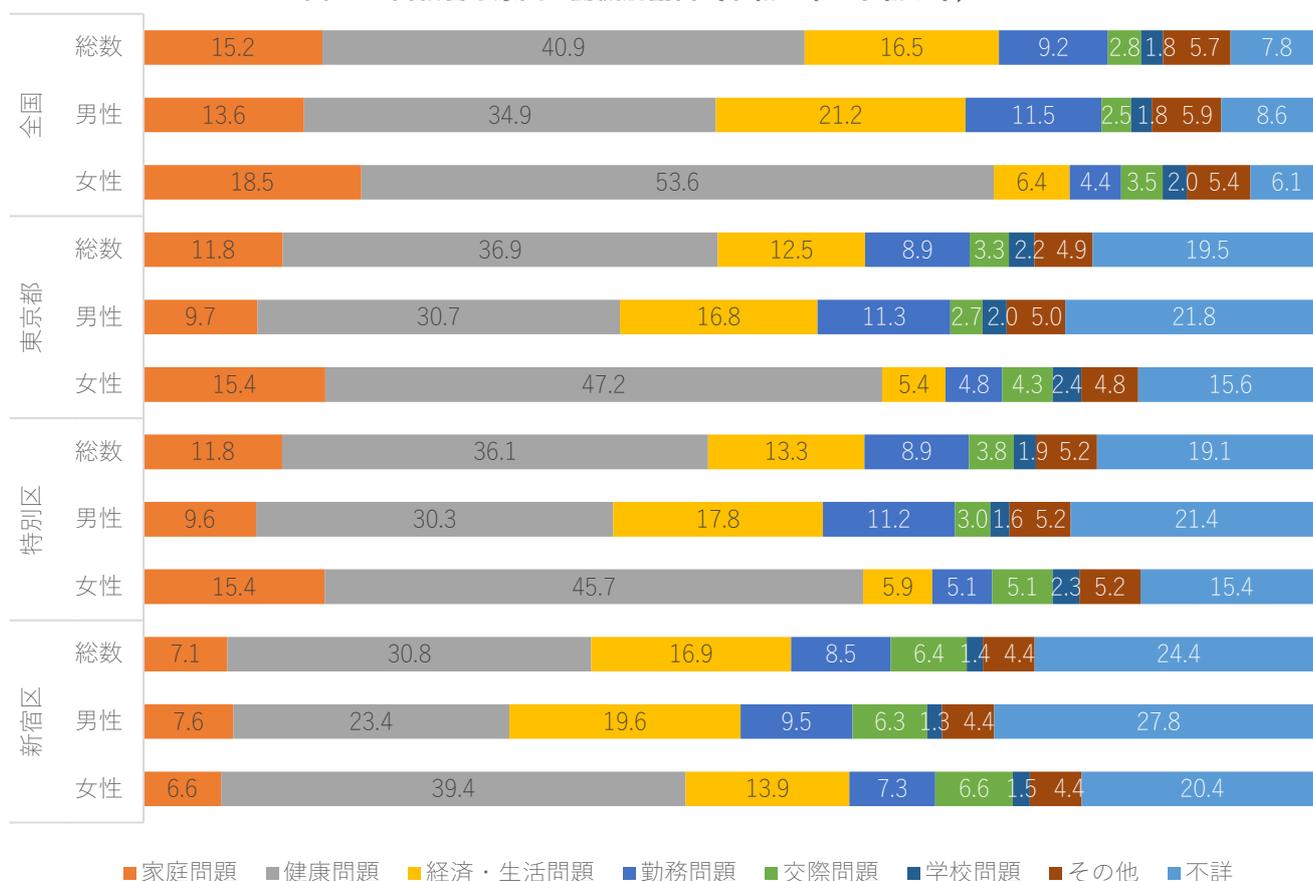
資料：警察庁「自殺統計」、総務省「人口推計」、東京都「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」より作成

⑥ 令和4（2022）年～令和6（2024）年の自殺者の原因・動機別割合

自殺者の原因・動機別の割合は、「健康問題」、「経済・生活問題」、「勤務問題」の順に高くなっています。*不詳を除く

新宿区における令和4（2022）年～令和6（2024）年の自殺者の原因・動機別割合は、「健康問題」が30.8%と一番多く、次いで「経済・生活問題」が16.9%、「勤務問題」が8.5%となっています。（図12）

図12 自殺者の原因・動機別割合（令和4年～令和6年）



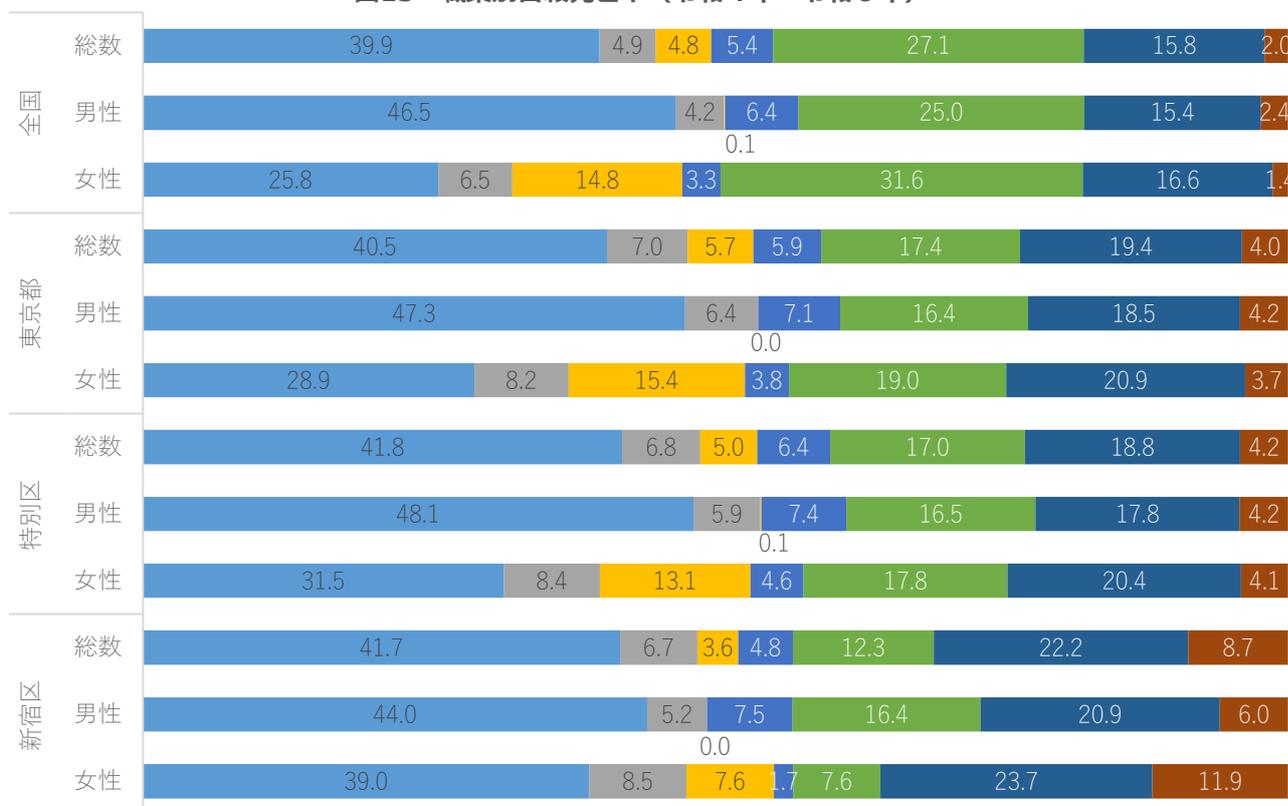
資料：警察庁「自殺統計」より作成

⑦ 令和4（2022）年～令和6（2024）年の職業別自殺死亡率

職業別自殺死亡率は、男性、女性ともに有職者が一番多くなっています。

新宿区における令和4（2022）年～令和6（2024）年の職業別自殺死亡率は、男性は有職者が44.0%、その他の無職者が20.9%、年金・雇用保険等生活者が16.4%の順で多く、女性は有職者が39.0%、その他の無職者が23.7%、主婦が7.6%となっています。（図13）

図13 職業別自殺死亡率（令和4年～令和6年）



■有職者 ■学生・生徒等 ■主婦・主夫 ■失業者 ■年金・雇用保険等生活者 ■その他の無職者 ■不詳

資料：警察庁「自殺統計」より作成

(5) 厚生労働省の人口動態統計に基づく令和元（2019）年～令和5（2023）年の年代別の主な死亡原因

過去5年間の年代別の主な死亡原因は、19歳以下・20歳代・30歳代で「自殺」が第1位となっています。

■年代別の主な死亡原因(令和元年～令和5年)

年代	1位 (死亡者数)	2位 (死亡者数)	3位 (死亡者数)	死亡者総数
19歳以下	自殺 (5)	悪性新生物／その他の先天奇形／不慮の事故 (4)	その他の神経系疾患／循環器系の先天奇形／その他の症状等で他に分類されないもの (3)	39
20歳代	自殺 (59)	その他の症状等で他に分類されないもの (9)	悪性新生物／不慮の事故 (5)	88
30歳代	自殺 (69)	悪性新生物 (18)	その他の症状等で他に分類されないもの (13)	138
40歳代	悪性新生物 (75)	自殺 (58)	脳血管疾患 (43)	320
50歳代	悪性新生物 (208)	心疾患 (86)	その他の症状等で他に分類されないもの (63)	654
60歳代	悪性新生物 (497)	心疾患 (139)	その他の症状等で他に分類されないもの (87)	1,171
70歳代	悪性新生物 (1,103)	心疾患 (384)	脳血管疾患 (167)	2,814
80歳以上	悪性新生物 (1,694)	老衰 (1,505)	心疾患 (1,483)	8,918

(※)本表の作成については、死亡原因に関するデータが「自殺統計」(警察庁)に無いため、「人口動態統計」(厚生労働省)のデータを使用した。

資料：厚生労働省「人口動態統計」より作成

新宿区の自殺の特徴

- 東京都新宿区（住居地）の2019～2023年の自殺者数は合計400人（男性200人、女性200人）であった（厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」（自殺日・住居地）より集計）。

自殺者の特性上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺死亡率* (人口10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位:女性 20～39歳有職独居	44	11.0%	44.9	①非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺／②仕事の悩み→うつ状態→休職／復職の悩み→自殺
2位:男性 20～39歳有職独居	23	5.8%	17.3	①【正規雇用】配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺／②【非正規雇用】(被虐待・高校中退)非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺
3位:男性 60歳以上無職独居	22	5.5%	79.8	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
4位:男性 40～59歳有職独居	22	5.5%	26.9	配置転換(昇進/降格含む)→過労+仕事の失敗→うつ状態+アルコール依存→自殺
5位:女性 20～39歳無職同居	21	5.3%	50.4	DV等→離婚→生活苦+子育ての悩み→うつ状態→自殺

出典：一般社団法人いのち支える自殺対策推進センター（JSCP）
「地域自殺実態プロファイル2024」

* 自殺死亡率の算出に用いた人口は、総務省「令和2年国勢調査」就業状態等基本集計を基にJSCPにて推計したもの。

** 「背景にある主な自殺の危機経路」は、ライフリンク「自殺実態白書2013」を参考に推定したもの。自殺者の特性別に見て代表的と考えられる経路の一例を示しており、記載の経路が唯一のものではないことに留意。